

苫小牧市福祉のまちづくり推進会議 議事録

■日 時：平成27年11月18日（水）15時30分から17時00分

■場 所：苫小牧市役所南庁舎4階会議室

■出席者：

<委員>

栗山 昌樹（議長）

高橋 信清

浦本 隆夫

林 英二

杉浦 佳子

登 光敏

曾田 昇

佐々木 匠

小林 裕子

<欠席者>

渡辺 健治

伴辺 久子

江尾 清

荻野 雅治

川村 栄

（敬称略）

<事務局>

山田障がい福祉課長

小林主査

三澤主事

佐柄主事

■議 事：

- （1）平成28年度バリアフリー化事業について
- （2）平成27年度福祉のまちづくり表彰について
- （3）福祉のまちづくり推進事業について
- （4）その他

■議事要旨：次項以降に掲載

■議事（１） 平成２８年度バリアフリー化事業について

○平成２７年度バリアフリー化事業は、高丘霊葬場の改修工事を行いました。

○平成２８年度バリアフリー化事業について次のように提案しました。

【白鳥王子アイスアリーナトイレ洋式化工事】

- ・市内公共施設のトイレ洋式化率の現況について説明しました。
- ・白鳥王子アイスアリーナは、スケート競技やアイスホッケーの試合開催だけでなく、スポーツ合宿等でも多く利用されます。
- ・みなと祭りやスケート祭りでは、１階トイレが一般開放されるなど、不特定多数の利用者が多くあることも特徴として挙げられます。
- ・施設の現在の整備状況は、和式トイレ３１台、洋式トイレ２１台、身障者用トイレが２台となっております。
- ・担当課であるスポーツ推進室および指定管理者である体育協会と話し合い、整備箇所や工期について慎重に検討しながら事業を進めていきます。

【市民活動センター「歩導くん」整備】

- ・現在あらゆる場面で凹凸のある誘導ブロックが使用されており、視覚障がいの方は白状や足裏の感触でこの凹凸を判断し歩行しています。しかし、この誘導ブロックが場合によってはバリアとなるケースもあるという問題は、過去の会議の中でも意見が挙がっておりました。
- ・「歩導くん」は、屋内専用の「視覚障がい者歩行誘導ソフトマット」として開発されたものです。弱視の方にも認識しやすい色に配慮され、細かい凹凸がなく、車椅子やベビーカー等のタイヤがとられにくくなっています。
- ・平成２８年改修工事予定の旧道立病院施設内での設置を検討しております。
- ・本整備前に業者へ依頼し、デモ設置を考えています。担当部署へ御協力いただき、どなたでも使いやすいか、雨や雪などの耐久性は大丈夫か等、使用者の声や実際に使っている様子を見ます。デモ終了後、施設側や利用者声を聞き入れながら、本整備へ進めていきたいと考えています。

質問・意見

■特になし

■議事（２） 平成２７年度福祉のまちづくり表彰について

○「福祉のまちづくり表彰」は、苫小牧市社会福祉表彰の一つとして条例の趣旨に合った福祉のまちづくりの模範となる者、またはその功績のあった者について、個人や団体を福祉のまちづくり推進会議からの意見を参考にして表彰することとしています。

- 「福祉のまちづくり表彰」は福祉のまちづくり推進計画の主要事業の一つとして、福祉のまちづくりの普及と啓発を目的として実施しているものです。
- 平成27年度福祉のまちづくり表彰について、年内は推薦受付可能です。適した候補者がいる場合は事務局に連絡を頂くようお願いしました。委員から推薦がない場合は事務局腹案として、推薦候補を提案させていただきたいと思っております。

質問・意見

■表彰するのは1団体のみですか。《高橋委員》

《事務局》平成26年度福祉のまちづくり表彰は1団体のみでの表彰でしたが、過去の表彰では3団体を表彰していたり、1団体1個人を表彰していたりと、被表彰者の数および団体や個人であることの指定はありません。(過去の表彰者については下表参照)

【過去の表彰者一覧（平成20～26年度）】

年度	表 彰 者
H20	・ 秦野時恵（苫小牧聴力障害者協会会長） ・ 社会福祉法人 緑星の里 ・ 車いすボランティアサークルYOU・友
H21	・ 学校法人苫小牧学園 苫小牧高等商業学校 ボランティア部
H22	・ マックスバリュ北海道㈱ ・ 苫小牧市赤十字奉仕団 ・ 苫小牧手話の会
H23	・ 苫小牧市朗読赤十字奉仕団 ・ ボランティアサークルたんぽぽ
H24	・ とまこまいふれあい広場推進委員会
H25	・ 苫小牧市点訳赤十字奉仕団 ・ 影浦泰子
H26	・ 王子総合病院ボランティア わかくさ会

(敬省略)

■推薦はどのような団体からされるのでしょうか。また、推薦方法は自薦ではなく他薦に限定されていますか。《小林委員》

《事務局》これまでの表彰では、推進委員の皆さんから推薦していただく年度と、事務局側から提案させていただく年度とがありました。事務局側から提案した際は、ボランティア団体等で活動実績が長い団体や福祉のまちづくりについて功績ある活動をしている方を、推進会議にて承認をいただいたうえで表彰しています。

また、過去の表彰では基本的な推薦方法は他薦でしたが、自薦が認められていないということではありません。自薦があった場合も最終的には推進会議で委員の皆様の

御意見、御承認をいただき、表彰するかどうかを決定させていただくことになります。

■表彰の基準について《登委員》

《事務局》推薦基準については、苫小牧市福祉のまちづくり条例の趣旨に沿って活動していただいている方や、福祉のまちづくりについて功績のある方、団体という位置づけになっております。全く福祉に関係のないところで表彰することは難しいですが、福祉に何らかの関係がある方や団体は表彰される可能性があります。

昨年は「王子総合病院ボランティア わかくさ会」様を表彰しましたが、一昨年は「苫小牧市点訳赤十字奉仕団」様、更に過去には民間企業である「マックスバリュ北海道(株)」様、「苫小牧高等商業学校ボランティア部」様を表彰したこともあります。このように、福祉のまちづくりといってもバリアフリーに関するものだけでなく、ボランティア活動をしているサークル、福祉活動に取り組む法人、教育の中での社会活動を行っている部活等、福祉に関わっている団体や個人を広く対象にできるものです。

苫小牧市で表彰される場面や、市役所を訪れて市長から表彰を受けるという機会は普段ないと思われまじ、団体や個人にとっても貴重な経験になります。福祉のまちづくりについて功績ある活動を表彰されるとともに、団体や個人としてこれまでの活動を振り返る良い機会になればと思います。

■昨年度病院ボランティア団体が表彰されましたが、「苫小牧市立病院ボランティア エールの会」を推薦してはどうですか。《浦本委員》

《事務局》御意見ありがとうございます。平成27年度表彰の候補として検討したいと思います。

■推薦用紙はあるのですか。《高橋委員》

《事務局》推進会議開催前に推進委員の皆様へ推薦用紙をお渡ししていた年度もありますが、なかなか推薦が挙がらないということもあり今回は会議の場で推進委員の皆様へ直接御意見を伺ったところです。昨年は推薦がなく、事務局から団体を推薦させていただきました。

■推進会議にて推薦、承認し、最終的には、市長が表彰状を渡すまでが一連の事業ですか。それに至るまでに団体とのやりとりや、推進会議での動きはあるのか。《登委員》

《事務局》事業の流れについてはおっしゃる通りですが、表彰される方や団体へは、活動の詳細を聞くために取材させていただくことがあります。次回の会議開催時期を考えると、再度推進委員の皆様へ表彰についてお尋ねするタイミングがとれないと思われまじ。今回いただいた御意見に加え、年内に他の推薦があればそれらを候補として検討し、最終的に決定したものを事務局から報告させていただきます。

■ 議事（３） 福祉のまちづくり推進事業について

- 「福祉のまちづくり」を根本から見直し、日常生活の中で皆さんが感じていることや考えていることから必要な施策を見出していくため、委員の皆様ブレインストーミングを実践していただき、今回会議では第3回となります。
- ブレインストーミングの手順に沿って意見を挙げていただき、意見を収集、分類していき、最終的には解決策へと結び付けていくこととしております。
- これまでのブレインストーミングの流れについて確認しました。

【①平成26年度第二回会議（平成27年3月17日開催）】

「現状」について、A班、B班に分かれてふせん紙に意見を書き、模造紙に貼り付ける作業をしていただきました。

【②平成27年度第一回会議（平成27年8月6日開催）】

「課題」を把握するため、収集した意見について内容の近いもの同士を分類し、グループ化していただきました。こちらも各班で進めていただきましたが、すべての意見を分類しきれずに会議を終えました。

- 今回会議では、各班で挙げていただいた意見を事務局でまとめて分類し、グループ化したものをお示ししました。これらを「解決策」へと結び付けていくために、委員の皆様には分類したグループごとに対する質問や問題点、解決策等について御意見をいただきました。

意見まとめ ※【 】・・・事務局で分類したグループタイトル

【見守り、育てる地域づくり】

- ・少年非行等を防ぐ「心を育てる会」を設けている町内会がある。
- ・学校と地域とのかわりが少ない。町内会の方が学校にきて「芋植え」を教え、育てて収穫、食事までを子どもと地域の人々が一緒に行うという活動があった。こういった活動は学校と地域とのつながりを強くすると思うので増やしていけないか。
- ・学校と地域とのつながりはこれからますます求められていく。子どもや地域が安心して暮らせる地域をつくるべき。学校だけで完結せず、家庭・地域との連携をどう考え、進めていくかを考える必要がある。
- ・コミュニティスクールを実施してはどうか。
- ・町内会に入っている割合は地域によりばらつきがあり、そのことが町内会ごとの温度差につながっているともいえる。
- ・「徘徊高齢者捜索情報」の登録制度がある。徘徊しないように各家庭で配慮するにも限度があるので、お年寄りや障がいをお持ちの方、子どもなど多くの人が安心して「徘徊

徊できる」地域の暖かさ、体制をつくっていけないだろうか。

- ・閉じ込めるような状態は避けて見守りを強化。

【自分たちで出かけたい】

- ・市内路線バスのノンステップバス車両を利用しやすくするため、運行状況が分かるように情報提供する。
- ・心身障害者福祉センター所管の車椅子対応マイクロバスを活用する。
⇒現在は、主に放課後等デイサービスの送迎で利用していて、市内全域ですぐに活用することは難しいと思われる。
- ・平成28年の心身障害者福祉センター移転について交通面の対応が求められる。

【歩行者が主役のまちづくり】

- ・通学路の安全把握はされているのか（ガードレール、歩道と車道の段差等）
- ・通学路のゾーン30*強化（登下校時間帯・速度制限）

*ゾーン30：生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域（ゾーン）を定めて最高速度30km毎時の速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制等を図る生活道路対策。「警察庁交通局ホームページより」

- ・まちづくり推進課で担当している「苫小牧市駅前広場再整備基本計画」及び「苫小牧市バリアフリー基本構想」でも、道路整備については検討しているところなので、整備の方向性について留意していかなくてはならない。

【冬でも／夜でも安全に歩ける】

- ・健常者でも雪道、夜道は危ないところがある。
- ・町内会による街路灯の設置要望、街路灯のLED化
- ・車道のみ整備していて歩道を整備していないことがある。整備は何度も必要になる。

【福祉の声が行き届く施設整備】

- ・女性用トイレにしかオムツ替えのスペースがなく、男性が手伝おうとしても利用できないことがある。
⇒多目的トイレを増やせたら男性も女性も利用しやすくなる。築年数の長い施設では整備がいき届いていないのが現状。

【もっと子育てをサポートしてほしい】

- ・より身近な距離感の相談相手を配置できないか。また、組織に子育てサポートの機能を持たせられないか（発達障がいにおけるペアレントメンターなど）。

【市民みんなが障壁（バリア）のある人のことを理解する】

- ・心のバリアフリーと意識の高揚
- ・福祉のこころを育てる。ハード整備だけではなくソフト面を強化していく。
- ・障がいについて理解を深めるPRや広報活動等の呼びかけが必要。（勉強会等）
- ・市でGPSを貸与している自治体もある。（苫小牧市では実施していない）

■議事（４） その他

○障害者差別解消法について

平成28年4月施行の障害者差別解消法について説明させていただきます。ブレインストーミングの中でも「市民みんなが障壁（バリア）のある人のことを理解する」という旨の意見が多数挙がっておりましたが、その内容に関連してきます。

法律について分かりやすく言い換えますと、障がいをお持ちの方が困っているときに周りの人が工夫していこうとするものです。例えば、窓口にろうあ者が見えたときには手話または筆談で対応する、視覚障がいをお持ちの方やお年寄りなど目が見えにくい方に対しては代読や拡大読書器を用意するなど、バリアのある方への合理的配慮を広めていき、誰もがくらしやすくするためにどうすればよいかをみんなで考えていきます。福祉のまちづくりに関連するものとして、この先推進会議のなかでも何度か話題にさせていただきたいと思っております。

また、議事1で視覚障がい者用誘導ソフトマット「歩導くん」を御紹介しましたが、今後もあらゆる福祉用品には工夫がなされ、改良されていくことが見込まれます。障がいをお持ちの方がどのようなことで困っているのかといった情報、またはこんな福祉用品があると助かるといった情報は、行政側にすべて入ってくる訳ではありません。推進委員の皆様の中にもそのような情報がありましたら御提案、御意見をいただき、今後も御協力をお願いしたいところです。

○今後の会議日程について

- ・次回会議について、年度内にはあと一回開催予定です。推進委員の皆様には別途御案内させていただきますので、御出席よろしく願いいたします。

以上